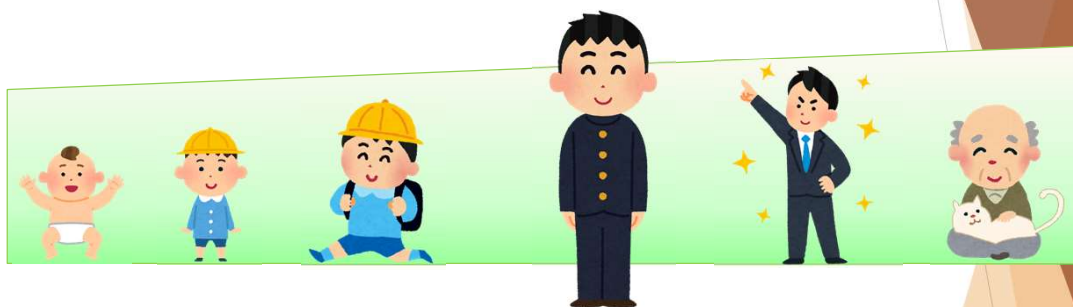


発達障害のある中高生の 理解と周囲の関わり方

作新学院大学 人間文化学部
大学院 心理学研究科
高浜 浩二

中学生・高校生という時期



身体の変化

役割・立場・人間関係
の変化

心の変化

「思春期」に振り回されない

- ▶ 個人差が大きい（全体的に幼くなっている？）
- ▶ ある日、突然に人格が変わるわけではない
- ▶ もともと持っていたものが
これまでよりも大きな反応が現れる

⇒ その子の基本的な部分は変わらない



「診断名」に振り回されない

- ▶ 未診断、グレーゾーン
- ▶ 誤診、重複の問題
- ▶ 困り感の顕在化



⇒ 一人一人の具体的な特性の把握が重要
= 得意と苦手の把握

「ことば」に振り回されない

- ▶ 言語能力の困難さ、誤学習
 - ▶ 独特の視点、価値観
 - ▶ コミュニケーションの困難さ
- = 自分の状態や気持ちを
適切に表現できていない可能性がある
- ⇒ 本人の「ものさし（視点）」で捉える



中高生の子どもを理解する時のポイント

- ▶ 思春期ではなく、一人の個人として見る
 - ▶ 障害名ではなく、特性を見る
 - ▶ ことばの内容ではなく、本人の視点を見る
- ⇒ 日々の記録からパターン・傾向を発見する
好み、能力、社会性を把握する
(時には知能検査の活用も)

少し工夫するだけでも、だいぶ違う！

例えば、

- ▶ NGワードを言わない／挑発にのらない
- ▶ 他の子と比べて評価しない
- ▶ 結果ではなく、プロセスを評価する
- ▶ 大人自身が人生を楽しむモデルを示す！
(人生の希望を見せる)

支援・援助をする際の5つのコツ

- ▶ 「フツウ」にこだわらない
- ▶ ツールを使い倒す
- ▶ 愛されキャラを目指す
- ▶ 「自分が必要とされる」体験
- ▶ 子ども視点での伝え方



「フツウ」にこだわらない

- ▶ 他人との違いを意識する
- ▶ コミュニケーションがかみあわず、対人関係で困る



- ▶ 行き方（生き方）はいろいろ
- ▶ スペシャリストを目指す
- ▶ ×マイナスを減らす→○プラスを増やす
- ▶ 自分に近い先輩（身近なモデルの存在）



ツールを使い倒す

- ▶ 頑張ってもついていけない→無力感、絶望感
- ▶ 根拠のない精神論→劣等感、自己嫌悪



- ▶ パソコン・スマホのスキル
 - 情報の最適化、記憶の外部保存、書字の代替
 - ▶ 便利グッズ、環境調整（見える化、構造化）
 - ・片付け術の活用
- ⇒ 大人になってから「武器」になる

愛されキャラを目指す

- ▶ 離職の理由のトップは「対人関係」
- ▶ 独立への過剰な促し→抱え込み、他者への依存



- ▶ 援助要請スキル 「教えて」「わかりません」
- ▶ 感謝の表現
「すみません」ではなく「ありがとう」
- ▶ 笑顔の練習 意外にできない子が多い

「自分が必要とされる」体験

- ▶ 「愛情の反対は無関心」
- ▶ 自尊感情が低いと自分のために頑張れない



- ▶ 感謝される機会
「やらせる」ではなく「手伝ってもらう」
- ▶ 好き・得意を活かす
「こんな自分でもやれること」を発見
- ▶ 相性の良い部活や課外活動への参加

子ども視点での伝え方

- ▶ 心配から「教え込もう」とする（干渉しがち）
- ▶ 聞いて覚えることやニュアンスの理解が困難



- ▶ 気持ちは受け取めて、行動の変化を促す
「気持ちは分かる。でも、やり方は変えよう。」
- ▶ ペンとノートで見える化
- ▶ 子どもが使っている「ことば」で整理する



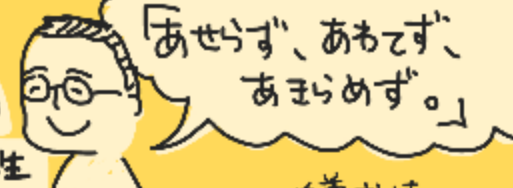
まとめ

- ▶ 一人の人間として、本人の特性（好み、能力、社会性）を把握する
- ▶ 支援・援助をする際の5つのコツ
- ▶ 「あせらず、あわてず、あきらめず」

発達障害のある中高生の理解と関わり方

NPO法人サイボウズ主催 第11回社会的養護施設職員向け研修会20210913

作新学院大学
人間文化学部
大学院心理学研究科
高浜浩二先生



中学生・高校生への時期



「思春期」という言葉に振り回されない

個人差が大きい(全体的に)



「診断名」に振り回されない

未診断、グレーゾーン
誤診、重複の問題
困り感の顕在化



⇒ 一人一人の具体的な特性の把握が重要

「ことば」に振り回されない

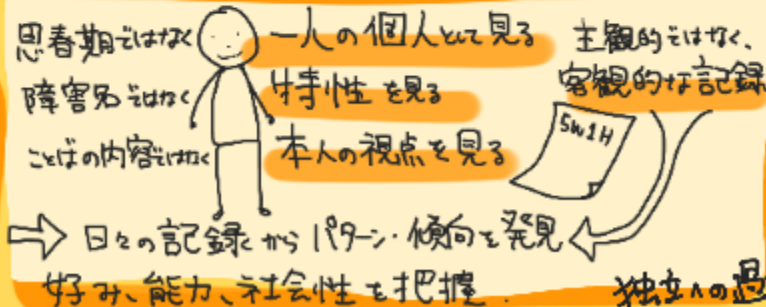
言語能力の困難さ、誤学習
独特の視点、価値観
コミュニケーションの困難さ

⇒ 自分の状態や気持ちも適切に表現できていない可能性

⇒ 本人の「ものさし(視点)」で捉える
× 一般的な「ものさし」



中高生の子どもを理解するときのポイント



好み、能力、社会性も把握
独立への愚刺しを促し
⇒ 抱えこみ他者の依存

「し」工夫するだけでも、だいたい違う!

例) NGワードを言わない、排発にのめり、他の子と比べて評価しない
結果ではなくプロセスを評価する
大人自身が人生を楽しむモデルを示す!

支援・援助する際の5つのコツ

① 「フツウ」にこだわらない

行き方(生き方)はいくらでも
スペシャリストを目指す × ねえねえねえ
× ゼネラルな時 × プラス増時
自分に近い先輩(身近なモデル)の存在

② ツールを使い倒す

パソコン・スマホスキル カラダ2枚!
情報の最適化、記憶の外部保存、書きの代替
便利グッズ、環境調整(見出し、構造化)
片付け術の活用
⇒ 大人になっても「武器」になる

③ 愛されたいを目指す

援助要請スキル「教22」「モウ30」
感謝の表現「ありがとう」ではなく「おかげさまで」
笑顔を練習 悪いことばかり

④ 「自分が必要とされる」体面

「愛情の反対は無関心」
自尊心が低い
自分のためにがんばらない

⇒ 感謝の機会

「ありがとう」ではなく「手伝って」
⇒ 好き・得意なことを
「これは自分でもできること」を褒める
⇒ 相性悪い部屋や
言葉外活動への参加

⑤ 子どもの視点での伝え方

⇒ 気持ちを受け取り、
行動の変化を促す
⇒ 心と目で見えれば
⇒ おもてなしの「ことば」を整理

